



TITLE:

<VII>産学連携

AUTHOR(S):

溝上, 慎一

---

CITATION:

溝上, 慎一. <VII>産学連携. CPEHE Annual Report 2019, 2018: 44-45

ISSUE DATE:

2019-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/241572>

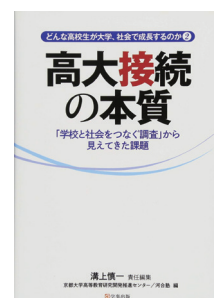
RIGHT:

## VII. 産学連携

### 1. 学校と社会をつなぐ調査(通称「10年トランジション調査」)

「学校と社会をつなぐ調査」(通称:10年トランジション調査)は、2013年に京都大学高等教育研究開発推進センターと学校法人河合塾が共催で開始した、高校生を対象に10年間追跡調査するものです。全国378校の高校2年生45,311名が調査に参加し、この度の大学3年生の調査には、3,239名の大学生(2015年時の高校卒業時に現役で大学進学した生徒)が引き続き参加しました。当時(2013年)高校2年生だった生徒はいま大学4年生(現役合格者)になっています。

- 2018年2月には、高校2年生から大学1年生へのトランジションについての成果を、『高大接続の本質－学校と社会をつなぐ調査－から見えてきた課題－』(溝上慎一責任編集 京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾編 学事出版)として刊行しました。
- 高校2年生から大学3年生までのトランジションについての分析結果は、いま報告書を刊行準備中です(2019年3月予定)。報告書の主な結果は、次の2点にまとめられます。



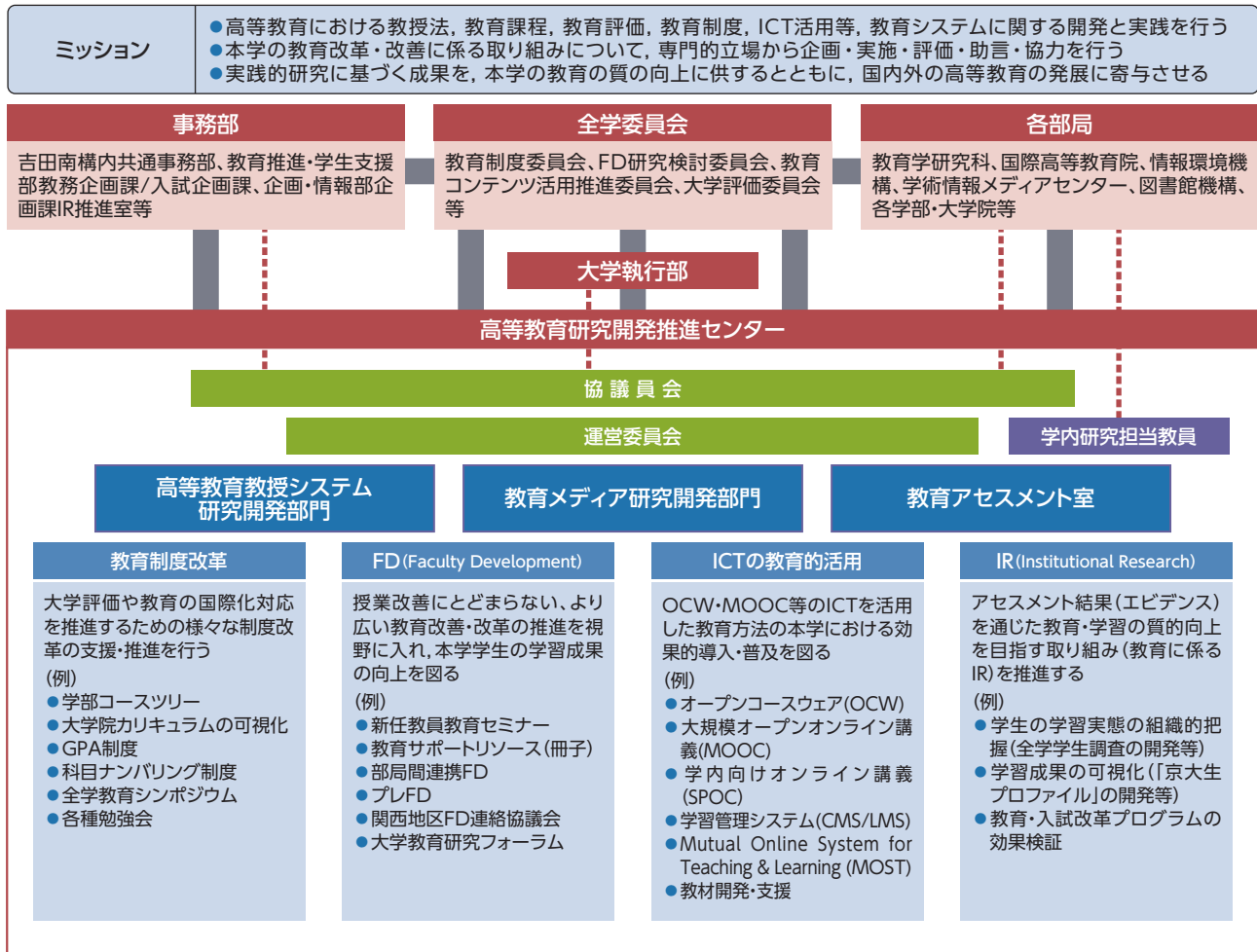
- (1) 資質・能力は、高校2年生から大学3年生にかけて、クラス内での変化は統計的に認められるものの、クラス間を移動するほどには大きく変化しない(例えば低クラスから中クラスまたは高クラス、中クラスから高クラスまたは低クラスなど)。
- (2) 資質・能力の高低と学習(主体的な学習態度やアクティブラーニング外化など)、キャリア意識(二つのライフ)は密接に関連している。資質・能力の高い者はアクティブラーニングをはじめとする学習に意欲的に取り組み、キャリア意識も高いといえる。

これまでの報告書は下記をご覧ください。

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/trans/>

(溝上 慎一)

## 全学機能組織としてのセンターの取組と連携体制



### 京都大学高等教育研究開発推進センター 教員・スタッフ

飯吉 透 教授(センター長)	緒方 孝亮 特定研究員
松下 佳代 教授	鈴木 健雄 特定研究員
溝上 慎一 教授(～8月)	安宅 純子 特定研究員
田口 真奈 准教授	長沼 祥太郎 特定研究員(～12月)
酒井 博之 准教授	河野 亘 研究員
山田 剛史 准教授	川内 亜希子 研究員
森村 吉貴 特定准教授(兼)	Nikan SADEHVANDI 研究員
岡本 雅子 特定助教	勝間 理沙 研究員
藤岡 千也 特定助教	木崎 稜平 技術補佐員
長谷 海平 特定助教	岡田 正大 技術補佐員
Isanka Wijerathene 特定研究員	坂本 久理 特定職員